



特集

時代に呼応し進化する 女子教育を目指して ——新体制で挑む——

学長 泉原伸公

新学長に 聞く

神戸女子大学・神戸女子短期大学を運営する行吉学園は、平成31年4月から新たな理事長、学長が就任し、新元号令和とともに新たな歴史を歩み始めました。



建学の精神を踏まえて、学長として重点的に取り組みたいこと教えてください。

本学は伝統的に一人ひとりの学生を大切にきた教育を行ってきました。学生のことを大切にするのは、大学教職員としては当たり前のことですのでやって当然なのですが、では具体的にどうするのか、と考えるとこれがなかなか難しい、一言では言えないものであることがわかります。学生に親切にはしますが、単にそれだけではありません。学生のデマンド（単なる要求）ではなくニーズ（本当に必要とするもの）を叶えていくのですが、独善的になるわけにはいきません。勢い余って甘やかすとかえって学生のためにならない場合もある一方、甘やかさないという言葉が無作為の言い訳にするのはもっといけません。このように具体的にはとても難しいことなのですが、実は答えは学園にいる私たちのすぐ傍にあることに気づきます。行吉 哉女先生の薫陶を受けられた先生方を中心に、本学教職員の先輩方が日々示されている学生たちに対する態度・様子を見るとき、それがいつも真っ先に学生のことを思っていることがわかります。これこそが一人ひとりの学生を大切にすることであり、及ばずながら私はそれを毎日学ばせていただいています。こんなことは他大学ではそうそうあるものではないと思います。

そんなわけで、私が今一番したいことは、この伝統を若い先生方に継承していくこと。また、本学がそうした素晴らしい教育をしていることをできるだけ可視化し、世の中の人にもっともっと知ってもらうことです。結果的に、このことは高校生たちにとって偏差値等よりもずっと強い志望動機になるはずだと。

副学長であった2年間は、地域連携推進センターのセンター長との兼任でした。この経験から、今後の大学として地域貢献をどのように推進するお考えですか？

本学の教育目標には、教育・研究に加え、地域貢献を大学の機能として掲げていますし、大学の使命として地域貢献があるのは言うまでもありません。

しかし、本学園の中期目標にも掲げましたが、本学の地域貢献は単に地域の役に立つことを行うものではなく、教育機関である以上、地域貢献となる取り組みを行う中で、学生たちが学び、成長することが重要だと考えます。地域との関わりは、学生たちが学ぶためのまたとない機会です。センター長時代には、そんな貴重な機会を学生や教員に提供してくださる地域の方々に、ぜひ貢献して、恩返しをしたいと思っていました。今もその気持ちは変わっていません。



ふれあい給食で挨拶をする栗原伸公学長

神戸女子大学と神戸女子短期大学の一体的な運営についてお聞かせください。

18歳人口が減少する中、学園の運営を効率化しなければならなくなっています。教育・研究の質を落とさず、逆にできるだけ上げながら、組織を効率化していくことが必須です。そのために、大学・短大で二重で行っていることをできる限り一本化します。

その際、大学・短大で行っていることを各部門で相互に見直し、それぞれの良い点を取り入れていくようにしたいと思います。とくに、大学教員出身の私としては、昔から学園が大切にしているもので短期大学において今なお実践していることがらをぜひ学ばせていただき、それらを積極的に取り入れていきたいと考えています。



学長 栗原 伸公(くりはら のぶたか) Profile

学歴

平成2年3月 東京大学 医学部医学科 卒業
平成3年4月 東京大学大学院 医学系研究科社会医学専攻博士課程 中途退学
平成11年4月 博士(医学) [東京大学大学院 医学系研究科]

所属学会

日本衛生学会、日本産業衛生学会、日本病態栄養学会、日本栄養学教育学会
American Heart Association
International Society of Nephrology
International Epidemiological Association

職歴

平成3年4月 東京大学 医学部医学科 助手 (平成10年2月まで)
平成8年3月 Henry Ford Hospital, Hypertension and Vascular Research 研究員 (平成10年2月まで)
平成10年3月 埼玉医科大学 医学部 専任講師
平成16年4月 神戸女子大学 家政学部 助教授
平成17年4月 神戸女子大学 家政学部 教授
平成22年4月 神戸女子大学 家政学部長 (平成28年3月まで)
平成29年4月 神戸女子大学 副学長 (平成31年3月まで)
平成31年4月 神戸女子大学・神戸女子短期大学 学長就任



栗原学長の専門は「衛生学」ということで、「公衆衛生学」「食品衛生学」等の授業を担当されています。学長の研究室では主にどのような研究が進められているのですか？

私の専門である「衛生」という言葉は、明治の初めに作られた言葉ですが、その概念には今でいう予防医学を含みます。私は医者であり、病気の人を診察しますが、できれば病気で苦しむ人を見たくありません。その人たちが病気になる前に何とかしたい、なおかつできるだけ薬を使わずに、つまり栄養・運動など生活習慣を通じて、病気の予防、さらには病気になりにくい身体づくりをする方法を探りたい。そう思って30年前母校の衛生学講座の門をたたきました。そして日常臨床の現場で、栄養による疾病予防実践における管理栄養士の重要性に強く気づかされ、15年前本学の管理栄養士養成課程に参りました。

現在は、唐辛子、生姜、昆布、昆布だしなどを摂取すると、高血圧になるはずのモデル動物の血圧が上昇しないという私たちの観察結果をもとに、そのメカニズム解明と食生活への応用法の開発を行っています。また、エビデンスに基づいた食育方法を開発すべく、保育園・幼稚園児から高齢者まで幅広い層に対して、食習慣・嗜好、生活習慣、主観的健康観などに関する調査を行っています。いずれのテーマもこれまでのゼミ生、院生が管理栄養士(の卵)として持つ問題意識から私に教えてくれたテーマばかりです。そして、学生たちがそれぞれ各テーマに熱心に取り組んで、興味深いデータを日々数多く示し続けてくれています。



学生へのメッセージをお願いします。学生の時にしかできないこと、やっておくべきことは何ですか？

私が今、学生時代にやっておいた方がよかったと思うのは、英会話、書字の練習、礼儀作法・マナーの習得、料理、営業見習い、ボランティア活動などです。AI、ICT時代になって必要なくなるものもあるかもしれませんが、それらができる人、やっている人はやはりカッコイイと思います。

しかし、私が学生たちに今最もやってほしいことは、実はそういったことではなく、その学生自身が「やりたいこと」です。スポーツや音楽でもいいし、語学、料理などもよいですが、やりたいからするのであって、役に立つからするのではない、ということが重要です。大学教員として希望を言えば、知的好奇心を満たすものだとお良いのですが、あくまで自分で決めたものをしてください。ただ、全力で行って、極めようとするのが大切だと思います。

お金や時間などいろんな制約があると思いますが、最初からあきらめるのではなく、できる限り粘ってほしい。学生時代には目一杯やれるはずだし、今やらなければやれるときがもうないかもしれない。そして、一生懸命頑張った先には、必ず何か見えてくるはずですよ。

新学長はこんな人 ♡ 栗原学長にいろいろ質問してみました

<p>座右の銘は？</p> <p>ものには時機がある。</p>	<p>趣味は？</p> <p>昔は、「弱電」でした。今は研究が一番楽しいです。</p>	<p>愛読書は？</p> <p>“養生訓” というべきですね。</p>	<p>学園全体で一番好きな場所は？</p> <p>須磨キャンパス “C203” 私たちの実験室です。</p>
<p>尊敬する人は？</p> <p>ペッテンコーフェル 最近、チャドウィックに移りつつあります。</p>	<p>一日で一番好きな時間は？</p> <p>予定より早く目覚めた後、追加で少し眠れる時間。</p>	<p>大学の教員になってよかったことは？</p> <p>仕事として、研究ができること。 若い感性・発想力に、常に刺激されること。</p>	

新理事長に 聞く

学校法人行吉学園 理事長 行吉宜孝

本学園は来年度に学園創立80周年を迎えます。
神戸女子大学・神戸女子短期大学に創立当初から受け継がれてきたもの、
行吉 誠之前理事長から受け継がれてきたものは何でしょうか？

このたび、学校法人行吉学園の理事長に就任いたしました。微力ながら精一杯努めてまいりたいと思っております。

行吉学園の歴史は、昭和15年、戦争が拡大していく局面の中で、戦争遺族の手に職を付け自立を助けるべく洋裁学校を設置したことにはじまります。

その後、高度な専門知識・技術に加えて、学問的研究に裏付けられた高い教養を備えた人材を養成するため、昭和25年に神戸女子短期大学、昭和41年に神戸女子大学を設置してきましたが、すべては「女性の自立を支える」ことが目的であり、その方針は現在まで一貫して引き継がれています。

これとあわせて、行吉 誠之前理事長は、本学の特長でもある「学生一人ひとりを大切にする」文化の醸成を進めてきました。学生個人を尊重し、丁寧な教育を行うことで、豊かな情操と高い知性を身につけた人材が育成されます。これを継続し、学生の能力を高め、学生の未来が少しでも豊かなものになるよう努めたいと思います。



行吉学園・神戸女子大学の歴史について講義する行吉宜孝理事長

学園の一体的な運営についてお聞かせください。

神戸女子大学と神戸女子短期大学は、もともと別のキャンパスに開設されたため、それぞれ独立した運営を行い、大学・短大間の交流も限られたものになっていました。しかし、平成18年に短大の置かれているポートアイランドキャンパスに大学の健康福祉学部が設置され、さらに平成27年に看護学部も開設されるようになると、一部の行事が大学・短大合同で行われるようになり、単位互換科目も開講されるようになりました。

令和元年度からは、女子総合学園としての魅力を高めるため、この流れを一層強化し、学生と教員の交流を活性化するとともに、教学組織や委員会の統合を進め、学園としての一体感を強めていきます。これらにより、学生はより多くの専門領域に触れることができるようになり、そこで学問追究の楽しさに目覚め、短大から大学への編入学、大学から大学院への進学といった選択がしやすくなります。

行吉学園は、今後も学生の多様な学習ニーズに対応すべく進化してまいります。引き続きご協力のほど宜しくお願い申し上げます。